



建学の精神

「わたしは道であり、真理であり、命である」
(ヨハネによる福音書 14 章 6 節)

大阪キリスト教学院は、自由メソヂスト教会の伝統を汲む河邊貞吉により、1905 年(明治 38)にキリスト教伝道者を養成する神学校として創設された。第二次世界大戦で焼失した校舎は 1952 年(昭和 27)北米フリーメソヂストの援助により再建され、教育は 100 年にわたって聖書の人間観に基づく人格教育を行ってきた。

学院第二世紀においても「道・真理・いのち」であるイエス・キリストに倣って、神と人に仕える人間の育成を目指す。



大阪キリスト教学院 校章・マーク

学校法人 大阪キリスト教学院

〒545-0042 大阪府大阪市阿倍野区丸山通1-3-61

TEL : 06-6652-2091 FAX : 06-6652-2068



創立

北アメリカ・フリーメソヂスト外国伝道局から日本宣教師に任命され帰国した河邊貞吉は、「キリスト教がまだ伝えられていない地への伝道」を志し、淡路島で本格的な伝道を開始。1903 年(明治 36)開催された内国勸業博覧会を機に、大阪に進出して都市伝道を展開しました。そこで、教会形成とともに修養生の訓練のために、1905 年(明治 38)私塾として〈大阪伝道学館〉を設けます。これが大阪キリスト教学院の起源となりました。

フリーメソヂスト教会の日本宣教は、最初、柿原正次によって開始されましたが、柿原が石井十次の孤児救済活動に力を注ぎフリーメソヂストの働きから離れたことで、一時中断していました。ところが河邊がフリーメソヂスト教会の働きを継承していることがわかり、マチューソンとヤングレンの 2 組の宣教師夫妻が派遣されました。河邊は 1921 年(大正 10)に、校地購入と校舎建設のための資金を募金するために再渡米。帰国してから現在の丸山校地を購入しました。〈大阪伝道学館〉は、翌 1922 年(大正 11)には〈自由メソヂスト神学校〉と改称し、初代校長にヤングレン宣教師が着任しました。

戦時色が強まった時代には〈日本聖化神学校〉〈西部神学校〉〈日本基督教神学専門学校〉と名を変えます。1945 年(昭和 20)6 月の大阪大空襲で校舎は全焼し、当時の丸山学園女学校キャンパスは焦土と化しました。終戦後には、北アメリカ・フリーメソヂスト教団の物的、人的援助を再び得て、1948 年(昭和 23)〈大阪神学校〉が開校、2 年後に〈大阪基督教学院〉と改称しました。翌年 11 月には新校舎を再建し、1952 年(昭和 27)大阪キリスト教短期大学神学科、保育科を認可設置するに至りました。

〈大阪基督教学院〉初代学長の土山牧羔は、自身が学んだアメリカ・ロサンゼルスのパシフィック大学及び、グリーンビル大学を例に引き、「自学自主研究の指導、少人数制、学生と教師の良い人間関係による知的向上と主体性の確立などにおいて、両校は本校のモデルとなった」と語っています。規模が大きすぎない環境で、教師の人格的感化を通して行なわれる教育の長所は、今に引き継がれています。

創立の背景と歴史

創立者である河邊貞吉は、アメリカ太平洋岸の信仰復興運動(リバイバル)を経験し、1885 年(明治 20)アメリカ・サンフランシスコのメソヂスト監督教会で M・C・ハリス師より洗礼を受け、神学全般の研鑽を積みました。実業家から転身して、主にアメリカ西海岸においてキリスト教伝道に従事。しかし、日本への帰国直前に浸礼による再洗礼を志願し、メソヂスト監督教会を脱会してフリーメソヂスト教会で再受洗しました。

フリーメソヂスト教会は、北アメリカ・メソヂスト監督教会から 1860 年に分離した牧師 B・T・ロバーツによって結成され、形骸化した監督政治からの自由、奴隷制度からの自由、プライドという外的装飾からの自由などの意味を込めて「フリー」メソヂストと命名されたものです。

帰国後の河邊は、淡路島の漁村の隅々を伝道して歩き、聖書の解説を短くまとめた冊子を配布しながら、島の南端の福良までたどり着きました。河邊は福良を拠点に伝道しましたが、キリスト教に入信する住人はありませんでした。あるとき福良に伝染病が流行り、河邊の子息も病にかかりましたが篤い祈りのうちに回復したことから、入信者が徐々に増えていきました。

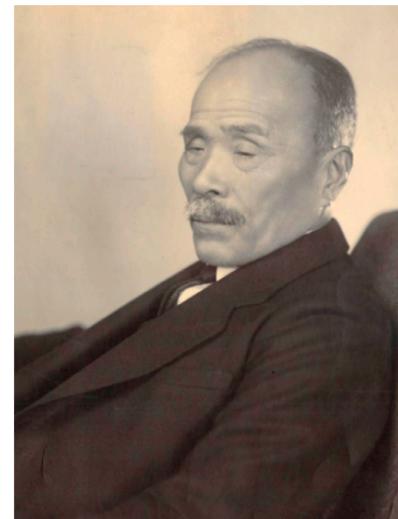
河邊はその中から有志の青年を選んで私塾を始めていますが、ここに〈大阪伝道学館〉の端緒を見ることができます。

福良には「河邊腰掛けの松」という逸話があります。海岸に植えられた松は、強い浜風によって根元から曲がって人が腰を掛けるのに都合よくできているようですが、河邊は伝道の行き帰りにそこで腰を掛け、長く祈ったということです。

大阪伝道学館となってからは、北アメリカ・フリーメソヂスト外国伝道局は二人の日本人をアメリカで採用し、日本に派遣しました。その内の一人が土山鐵治です。土山は当時、ドルー神学大学で新約学を専攻していました。大阪伝道学館でギリシャ語の授業を始めるなど、校風を一変させるほどの大きな影響を及ぼしました。大阪伝道学館を神学校へと実質的に移行させ、自由メソヂスト神学校とした功績は、土山に因るところが大であったといえるでしょう(のちに 2 代目校長に就任)。

1939 年(昭和 14)宗教団体法が成立すると、自由メソヂスト神学校は幾たびかの併合を余儀なくされ、最終的には他の神学校とともに東京神学大学に一本化されました。宣教と神学校への使命から、最後まで日本に留まっていたマイランダー宣教師もアメリカへの最終船で帰国。伝道局との関係は、これで途絶えてしまいました。丸山の校地と校舎は日本基督教団に引き渡す予定でしたが、土山は、キリスト教主義の学校を残すため、丸山学園女学校を開校します。しかし、終戦の年の 3 月、大阪大空襲による火災で焼け野原になってしまい、女学校も閉鎖されました。

大戦の終了と同時に、神学校の再建が模索されました。土山は神学校の再建の技を、長男の牧羔に託しました。1947 年(昭和 22)7 月に帰国した牧羔は、準備のために大阪日本橋教会において英語聖書研究会を開始。翌年 5 月の大阪神学校開校を経て、自由メソヂスト神学校があった現在地に、1951 年(昭和 26)〈大阪基督教学院〉が始められました。



創立者 Alexander D.Hail (1844~1923年)
弟と手を携えて外国伝道に献身。
ウエルミナ女学校を創設し、
不便な地域にも熱心に伝道しました。